

nijiiro

にじいろ

2011 AUTUMN

2011年9月1日発行（年4回発行）
第6号

河野病院の創立 65 周年と 医療法人済世会 60 周年

2011 年済世会
病院夏祭りレポート！

薬院河野クリニック便り

福島県郡山市での支援活動
「こころのケアチーム」参加

第 39 回日本精神医学会

職員さんちのペット紹介コーナー
うちの子！

武将パズルで頭の体操！

にじいろベーカリー
秋のパン便り

医療法人済世会

河野病院の創立 65 周年と 医療法人済世会 60 周年

理事長のご挨拶



医療法人済世会の歴史は創設者である故河野正が昭和 21 年、母親の郷里である糟屋郡篠栗町に河野病院を開院したことに始まります。残念ながら開設当時を知る職員は既に無く、かく言う私も創立後の昭和 36 年に東京で生まれたため、歴史の多くを知りません。また長い歴史の中で資料はほとんど散逸しています。もし単一の病院であり、理事長＝院長の体制が長く続いていれば、もう少し歴史が鮮明にわかり、詳細な年譜が完成したかもしれません。しかし、年表はなくとも、済世会の歴史や設立理念は我々職員の中に脈々と受け継がれていると思っています。例えば、済世会の名称は度々、「済生会」と間違えられます。紛らわしく面倒な思いをした職員も少なく無いと思います。しかし創立者河野正は、「我々は（生命だけではなく）世の中を救う病院でありたい」と敢えて“済世会”の名称にこだわったと聞いています。

この我々にとっての記念すべき年、長引く経済不況に疲弊した日本は、追い打ちをかけるような未曾有の震災と原発事故に見舞われました。敗戦直後の昭和 21 年、河野病院を立ち上げ、日本の高度経済成長を共に生きた当時の職員を顕彰し、これから済世会の新たな歴史を刻んで行きたいと思います。

最後に、これまで医療法人済世会河野病院グループに関わっていただいた全ての方に感謝の意を表し、記念のご挨拶とさせていただきます。

医療法人済世会 理事長 河野正美



60周年

1951-2011

医療法人済世会の思い出



インタビューに応じて頂いた黒木ハツヨさん

今年の7月で医療法人済世会は創立60周年を迎えました。創立当時や草創期の河野病院の出来事を知るために、当時勤務されていた職員さんにお話を伺いました。医療法人済世会に50年以上勤務され、河野名島病院で看護部長をされていた、黒木ハツヨさんです。現在も福岡県中間市にお住まいということで、お話を伺いに行ってきました。



正理事長の回診風景（向かって右隣に黒木さん）

〈黒木ハツヨさんインタビュー〉

・入職当時のことをお聞かせください。

私は、家政女学校卒業後、久留米医大助産婦看護婦養成所で資格を取って友人の強い誘いで河野病院に勤め出しました。20歳くらいから20歳まで勤めさせていただきました。通勤は中間から電車で通っていましたが、通いが難しくなってきたのは、月曜の朝、主人が協力してくれて名島の寮まで送ってくれました。月々土まで勤務し、土曜日に娘を迎えにきてもらって家に帰っていました。

当時、まだ若かった息子の正美さん（現理事長）がよく河野名島病院に来られてました。優しい方だったので好きでした。『まさみちゃん、まさみちゃん』と呼んでいました。

正先生が衆議院議員をされておられた頃、国会が開かれている時に、職員旅行で国会議事堂を見学しに行って、実際に国会が行われているところを見学させてもらいました。農業会館に一泊させてもらいました。いろいろ経験させてもらいました。

・職場の雰囲気はどうでしたか？

篠栗（河野病院）、宇美（河野柏屋病院）、名島（河野名島病院）から院長、総婦長、事務長が集まって会議をしていました。成績など発表、報告していました。『名島は名島で点数をあげんと』と頑張っていました。楽しかったです。

病院のすぐ隣に正先生のご自宅があつて、お母さんもお元気でした。用事で伺うと、台所で

正先生母「誰なー？」

黒木「岡（旧姓）です」

正先生母「（ご飯の）味見せんなー？」

黒木「一口じゃ味がわからんですよ」

と言つてもう少しご飯をいただいたりしていました。家族の人がやさしくて、河野家族と一体化した生活でした。

・創立者の河野正先生にまつわるお話は？

正先生は厳しいときは厳しく、でも基本的に優しい方でした。「困っている人がいたら救え。患者を断つてはいけない」という使命感をもって、病院を指揮しておられました。

病院はどうこう言わないけど、他のグループ病院には負けたくなかったですね。苦になるということはなかったです。各病棟の婦長にはつばをかけていました。看護婦やら栄養課やら、みんながよく協力してくれたから、つらかったということはありません。患者さんがかわいかった。ちゃんと伝えたら、言っていることを理解してくれました。

今も国道3号線名島付近を通る時は、三角時計台を見て、「河野病院ね、なつかしい」と思います。

二〇二一年六月二〇日福岡県中間市にて



当時の河野名島病院の正門前でポーズをとる黒木さん



当時の外来ロビーにて看護師さんの集合写真

60周年

60周年

現役の職員さんは、昭和50年代から勤務されている職員さんにお話しをお伺いしました。

〈河野名島病院職員インタビュー〉

〇先代理事長の思い出は？

先代の正理事長は見た目は威厳もあるし近寄りた感じがしたが、気さくで優しい方でした。信念をもっておられて、それから外れたり、間違っていたら厳しかった。一貫した厳しさがありました。会話の端々に優しい言葉をいうのではないけど、優しさがありました。また、イベント好きな方でした。今まで働き続ける事ができたのは正先生のおかげです。国会とか代議士とか身近な存在になりました。正先生が衆議院選挙に立候補した選挙の時は、当選確実がでるかどうかが夜までテレビを見ていました。当確がでるまで眠れませんでした。

・栄養課山口課長の思い出

56年〜57年頃職員給食が始まりました。先代の理事長はお忙しい方だったので、自宅（先代理事長の自宅）まで呼ばれて、職員給食を始めたという話があり、職員給食が始まりました。本宅と呼ばれたのが初めてで緊張しました。病院の会議室を昼だけ食堂にして給食を提供し始めました。正理事長がお昼に名島におられるときは、牛蒡天うどんをよく食べられていました。材料がなかったら、買いに行ったりもしました。

「このうどんが一番おいしい！」

と言ってくださって嬉しかったです。

河野名島病院は昭和53年当時最新の厨房システムを導入しました。長靴を履かずに調理できる厨房システムは当時最新で、熊本などから見学にいられていました。

・古賀義和師長代理の思い出

入職した当時は、暖房が練炭だったことには驚きました。患者さんで作業班を作り、練炭の火起こしをしていました。

正月2日に新年の挨拶会が職員寮で開かれていましたね。栄養課が料理を作ってお



栄養課 山口順子課長



看護部 古賀義和師長代理



当時を振り返って活き活きと話す古賀市長代理



恥ずかしがりながらもお話し下さった山口課長

ダブル10皿くらい準備していました。理事長から年頭の挨拶があり、集まった人みなで食事をしました。2時間くらいで終わるのですが家族的な感じでした。当時は職員の人数は今よりも少なかったですね。病床は常にほぼ満床で、職種関係なくみんなで行事を進めていたように思います。遠足へ行く時は患者さんをみんなで見守っていました。手作りで、みんなと和気あいあいとしていました。

二〇二一年六月二日 作業所にいろいろへー
カリーにて



左から、看護部 長沢みさ子さん、看護部 中村サツキ師長代理、事務課 平川眞弓事務長代理、看護部 宮川百代副看護部長、栄養課 百田茂之さん



〈河野粕屋病院職員インタビュー〉

・入職当時から、思い出深い出来事な
どありますか？

河野粕屋病院が建設前の時に、まだ何もない病院建設予定地に連れて行ってもらって見学をしたことを憶えています。展望台まで登りました。その時宝探し大会が開催されたことをおぼえています。

昭和57年河野粕屋病院が完成して落成式が行われました。当時は最先端の太陽熱給湯システムを導入していたと聞いています。多数の来賓の方々、見学者が来られましたね。老人会の皆さんや、中国からも見学、落成のお祝いの方が来られていました。

当時は、慰安旅行に行っていました。勤務の都合などあり、人数制限がありましたけど2班に分かれて、沖縄に行ったり香岐でウニ飯を食べたり東京に行って国会を見学させてもらったり、京都、岩国などいろんなところに連れて行ってもらいました。

看護師のナース服も時代と共に変わっていききました。初めは白、ピンク、青森の病院を見学されてブルーに変更になり、その時に女性はスカートからズボンに変更になりました。現正美理事長になってから、自由になりましたね。

・創立者の先代理事長の思い出は？

正先生が、国会が終わって土曜日に東京から帰ってこられた時は、必ず粕屋に寄っていました。

正先生の印象は、見ていないようで細かいところまで見られていて、威厳がありました。先代理事長の前だと緊張して、汗の量が多くなったという話を聞いたこともあります。

お茶を出す時、「熱いのは飲めない」と言われ、冷まして出したこともありました。果物が好きな方でした。バナナなど。買物好きでしたね。

・平川事務長代理の思い出

正先生「どっね？」

平川代理「元気で働いています。」

正先生「幸せね？」

平川代理「幸せです。」と答えた。

なんか意味深で印象的でした。

ウコッケイ、ウサギ、クジャクがいたり、温室の植物園があったり、果樹園があったり、自然豊かな環境の中で働く事が出来ました。また、子供を育てながらでも働きやすい病院で、前理事長、現理事長に感謝しています。

二〇一一年六月三日 河野粕屋病院にて



写真を見ながら当時は思い出す



30年の思い出は話がつきません



建設当時の河野粕屋病院

60周年



平成23年7月28日(木) 恒例の夏祭りが行われました。思い返してみると、ここ数年間夏祭り当日は晴天に恵まれおり、雨の心配より猛暑の心配をしているのは時代のせいでしょうか！

さて今年の夏祭りがスタートし、太鼓の音と踊りの曲がながれ始め『これこそ日本の夏だ！』といわんばかりの光景が広がりました。「炭鉱節」に続き「火の国太鼓」を患者様スタッフ一緒に、暑さを忘れさせるほど晴れやかな姿で踊っていました。

やはり祭りといえば出店。今回はカキ氷・たこ焼き・ソーメン(冷やしラーメン)・射的の4軒を準備いたしました。やはり暑さのせいかわかできたのはかき氷でした。喉の渴きを癒すのには一番で、今回も種類を豊富に用意していました。隣はアツアツのたこ焼き！そとはコンガリ中身はフワフワ、ソースの香りが食欲をそよりました。ソーメンもなかなかの絶品で、見た目よし、味よし、ひとつひとつに手が込んでおり美味しかったです。射的もたくさん景品が用意されていて、みなさんの当てるのに夢中になっていました。

暑さで体調の心配などありましたが今年も無事に終えることができた大変盛り上がった夏祭りになりました。

2011年済世会 病院夏祭りレポート！

平成23年7月6日(水) 河野名島病院 夏祭りが体育館で開催されました。

入院患者さんやデイケアの患者さん、スタッフなど多数の参加があり、大いに盛り上がりしました。まずは、納富院長の開会の挨拶のあと、参加者全員で炭坑節・九州祭りうた・東区音頭を続けて踊りました。約1ヶ月、この日の為にお昼のラジオ体操の時間に毎日練習したおかげで、上手に踊ることが出来ました。

次は、夏祭りのメインイベントで、露店めぐりです。各病棟や、デイケアスタッフが企画したもぐらたたき・ボウリング・輪投げ・ダーツ・魚釣りの中から、患者さんが好きな露店を2ヶ所選んで、楽しませていました。特にもぐらたたきと輪投げ(賞品がもらえる)が大人気でした。

露店を楽しんだ後は、夏の風物詩のスイカが配られ、美味しそうに食べられていました。次に、くじ引きがあり、靴下やシャツなどの賞品が当たった方は、とても喜ばれていました。

最後に、参加者全員で輪になって「ひとりの小さな手」を踊りました。安部副院長より閉会の挨拶をもらい、無事夏祭りを終えました。

今年は、体育館に空調機が設置されていた為、涼しく過ごすことが出来ました。





平成23年8月3日(水)、毎年恒例の河野粕屋病院夏祭りを開催しました。車椅子の方や歩行が不安定な方も気軽に参加できるよう体育館で行いました。

院長による開会の挨拶の後、まずは盆踊りを2曲(炭坑節・宇美町音頭)行いました。宇美町音頭を初めて見聞きする患者さんもありましたが、練習の成果もあつて本番ではスタッフが叩く太鼓に合わせてテンポよく踊ることが出来ました。

休憩後、毎年恒例の各病棟によるミニゲーム3種(ストラックアウト・輪投げ・ダーツ)とヨーヨー釣り、去年好評だったラムネが参加者へ提供され、カードを持って思い思いの順番で参加されていました。ミニゲームには得点別に景品があり、皆さん高得点を狙いながら楽しんで取り組んでいました。また、栄養課が夏の風物詩であるスイカを準備してくれ、きれいに切り分けられたスイカを皆さん美味しく食べていました。

最後に、副看護部長の閉会の挨拶があり、夏祭りは無事に終了しました。笑顔いっぱいの日となりました。

薬院河野クリニック便り

薬院河野クリニックでは、今年の4月より
内科診療もやっています。

- ・血液検査
- ・尿検査
- ・経皮的酸素飽和度測定
- ・心電図検査

なども当院で行っています。
お気軽に相談して下さいね。



暦の上ではもう秋だというのに、まだまだ暑さが厳しい日が続いていますね。

秋と言えば・・・

「スポーツの秋」、「食欲の秋」、「読書の秋」といった言葉があるように、気候がよくて、何をするにもいい季節ですね。

しかし、秋は日中と朝夕の気温差が激しく、湿度も大きく変化する時期なんです。

また、夏バテの症状を引きずってしまうこともあるため、この時期に体調を崩す人も多いと思います。

「**どうにも体調が優れない・・・夏の疲れが取れない・・・**」
こつこつと早く受診をお勧めします。



お問い合わせ

薬院河野クリニック

TEL 092 - 531 - 2416

URL <http://www.kawano-yakuin.com>

〒810 - 0022 福岡市中央区薬院4丁目4-20

福島県郡山市での支援活動「こころのケアチーム」参加

今年3月11日皆様の記憶にも新しい東日本を襲った未曾有の大震災は、半年を過ぎようとしている今もなお大きな爪痕を残しております。特に福島においては重ねて原発事故の影響も大変深刻な状況です。

今回、海精会*から看護師と精神保健福祉士の2名1チームとした医療チームの派遣要請がありました。原発付近の川内村、富岡町の避難所である福島県最大規模である「ビッグパレットふくしま」に非難されている方への心のケアを行う支援活動です。当法人からは山之内信子さん(河野名島病院・看護師)と上野真理子さん(当時薬院河野クリニック・精神保健福祉士)が平成23年7月4日(月)～平成23年7月8日(金)の期間で支援活動に参加してきましたので報告いたします。

* 海精会: <http://www.kaiseikai.jp/>

場所 郡山市ビッグパレットふくしま
期間 平成23年7月4日(月)～
平成23年7月8日(金)



私達が派遣された郡山市は福島県中通りの中央に位置する中核都市です。平成23年3月11日に発生した東日本大震災で震度6弱を記録し、ブルーシートがかかっている家屋や半壊等で取り壊され平地になっている所も多く見受けられました。避難場所であるビッグパレットも天井が剥がれ落ち、壁には多くの亀裂が見られ、落下物防止のネットが張られたホールの下で避難所生活を送って来られている状況でした。震災から4ヶ月が経過しようとしている頃でしたので、仮設住宅や借り上げアパートへの入居が決まった方も多く、約500人の方が避難所で生活されていました。開所当初は2500人の方が避難生活を送られており、通路は人が一人横向きで通れるのがやっとの状態だったそうです。ひしめき合い、殺伐とし、大混乱の中、不安と疲労とショックで「夜、眠れなかった」「血圧が上がってしまった」「毎日のように泣いた」「知らない間に涙が出ていた」と、避難当初の事を話して下さいました。

高齢の方の中には「戦争の時(終戦直後に比べたらまだ良い)」とおっしゃられる方もいらつしやいましたが、言い換えれば、比較できる出来事が太平洋戦争しかない程の大惨事だと言う事ができます。

現在、ビッグパレットに避難されている方の殆どが原発の避難区域内の方であるため、「帰る場所があれば復興できるが、私達は家に帰れる事はない。これからどうなるのか」

「いつ自宅に帰れるかわからない状態なので、仮設ならどこでも良いと言えない」と、先の見えない不安を口にされる方が多くいらつしやいました。



山之内信子(河野名島病院)(右)
上野真理子(薬院河野クリニック)(左)

多くの方が仮設住宅などでの自立生活へ移行していく中で「仮設へ移ったが、寂しい」「仮設は決まったが血圧が安定するまでは避難所に居たい(無料診療所がある為)」「仮設に行けば一人暮らしになる。」「病院にかかっているのに、遠くには行きたくない」など、慣れ親しんだ人との繋がりの変化や医療福祉の支援が手厚い避難所生活から移行する事への不安を口にされていた方もいらつしやいました。今後は自立生活へスムーズに移行して頂くための支援が必要となるのではないかと思います。

5日間と言つ短い期間でしたが、被災した方々に少しでもお力になれていれば幸いです。



避難所の中の様子

1日の主な流れ

- 8:00 救護室全体申し送り
情報共有及び活動準備
- 9:00 午前のラウンド
ラウンド後に記録
- 10:00 午前の活動(活動内容参照)
- 12:00 記録と情報共有
- 12:15 休憩
- 13:00 午後のラウンド
ラウンド後に記録
- 15:00 午後の活動(活動内容参照)
- 16:30 仮設住宅訪問
- 17:00 救護室全体申し送り
情報共有及び記録
- 17:30 終了



川内村、富岡町の災害対策本部

活動内容

	午前	午後
5日	アロマ石鹸作り	アロマ石鹸作り
6日	青竹踏み	かき氷
7日	かざぐるま作り	かざぐるま作り
8日	青竹踏み	青竹踏み



避難所の中に設置されている放射線量を表す電光掲示板

第39回日本精神医学会

平成23年7月14日・15日
札幌コンベンションセンターにて

平成23年7月14日、15日の2日間にわたり札幌市で第39回精神医学会が開催されました。当法人からは各病院から1例ずつの計3例の発表が行われました。全国より精神医療に携わる多職種の方々が集まる中、様々な角度からバラエティーに富んだ演題があり、刺激を受けるものばかりでした。一方、当法人の発表も他の病院からの関心や共感を集め、他病院も類似したケースやテーマに取り組んでいると実感することができました。1日目の夜には懇親会も行われ、各病院、施設のスタッフ同士が交流を深め親睦をはかり情報交換できるいい機会にもなりました。今回の学会を原動力に各病院、施設に還元し、患者様のための医療向上につなげるようさらに切磋琢磨しながら努めていきます。



スライド発表



河野病院 Ns
松本勝彦

受け持ち看護制を見直して ～教育委員の取り組み～

当院は受け持ち看護制を導入しているが、実際は業務優先となり、患者との関わりが希薄になっていないか危惧されていた。そこで教育委員会が受け持ち看護制をうまく機能させるために全病棟看護師を対象にアンケート調査を行った。その結果問題点として、患者との対応、家族との対応、受け持ち看護師の役割の3点に分けられた。アンケートの内容は切実なものばかりで、少しでも看護側の悩みが軽減でき、しいては受け持ち看護制の強化につながるよう3つの教育プランを実施することにした。一通りの教育終了後、再度アンケート調査を行い、実施前と後を比較しその変化を報告する。



ポスター発表

統合失調症患者への関わり ～半身麻痺・水中毒の統合失調症 の患者との関わりを通して～

今回の事例は、合併症を持ち精神状態が不安定、薬物療法も効果が薄く、妄想が激しい患者との関わり方についてである。看護側が患者の気持ちの変化を密に観察し、チェックシートを記載し会話を重ねた。患者の努力を認め、支持・共感し患者の意欲につなげる関わりを続けた結果、次第に良好なコミュニケーションや信頼関係が構築されていった。看護師は患者の症状や患者教育・家族教育の大切さだけに目を向けるのではなく、症状の裏に潜む心理や背景にも目を向けていけるような関わりも必要だと実感させられた事例である。



河野粕屋病院 Ns
近藤尚和

対応困難な患者が心を開くまで

今回、自傷他害にて隔離生活を一年数ヶ月余儀なくされた患者との関わりを通し、精神科看護は個々の看護の在り方に人権を尊重した信頼関係の大切さを学んだ。看護者自身が患者に対する恐怖感を持ちながら接していても受け入れてもらえない。患者の良い面に視点を向け、相手に寄り添う会話や看護師全員の関わりにより、患者の心が少しずつ開いていった。「保護室から一般病棟へ移りたい」と意思表示した事を機に心にアプローチし、患者がどのような経緯を経て病棟での生活へ導く事ができたかを報告する。



河野名島病院 Ns
馬場幸弘



職員さんちのペットご紹介コーナー うちの子! 第三弾

恒例となりました当法人職員のペット紹介コーナー第三弾!
今回は猫ちゃんパラダイスですよ!猫好きさん必見 (〽>ω<〽)

※お詫び※

2011年6月発行の2011年夏号にて、谷口さん宅の銀様と隼人さんの写真が大谷さん宅のりんごちゃんの写真になってしまいました。申し訳ございません。掲載の筈だった二匹の仲良し写真はこちらです。ケンカではありません



河野名島病院 検査室 嶋田先生んちの



グしくん
(1歳・ミックス)



チョロくん
(4歳・ミックス)



チビ婆ちゃん
(22歳・ミックス(永眠))

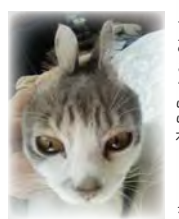
万歳!なチロちゃん



木登りするチロちゃんとグしくん



お食事タイム



うさぎついいえ、
ミミちゃんです

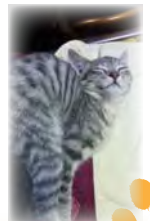


チロちゃん
(1歳・ミックス)



ミミちゃん
(1歳・ミックス)

四匹いま~す!



武将パズルで頭の体操!

最近、「ほら、あの人・・・名前が思い出せない」「あれよ、あれを買って来て」など、人や物の名前が思い出せない事が多くなって来たと感じる事、ありませんか? 身体機能低下の防止のために適度な運動を行うように、脳も使う事で機能の低下を防ぐ事が出来ます。

《武将パズル》

ルール: 室町後期から安土・桃山時代にかけて、乱世の中で活躍した人たちの名前をブロックに区切っていくパズルです。マスの中には25名の名前が隠されています。最後に、どのブロックにも入らなかった漢字を組合わせて一つの言葉にして下さい。

久	子	晴	尼	元	我	宗	部	長
家	大	興	景	小	隆	川	早	親
柴	勝	内	大	義	長	慶	三	好
田	黒	田	政	純	忠	村	名	馬
宗	達	長	幽	斎	大	小	晴	信
伊	政	細	川	近	行	西	長	有
六	角	右	高	山	武	信	田	玄
賢	三	斎	就	利	元	長	井	浅
義	国	道	藤	貴	毛	友	政	謙
竜	寺	久	島	津	麟	宗	大	上
造	雲	北	早	元	戦	朝	杉	信
隆	信	条	義	今	川	倉	義	景

25名の武将リスト

長宗我部元親	北条早雲	小西行長	有馬晴信
竜造寺隆信	伊達政宗	黒田長政	尼子晴久
小早川隆景	武田信玄	大村純忠	朝倉義景
六角義賢	高山右近	大友宗麟	浅井長政
毛利元就	島津貴久	大内義興	
三好長慶	柴田勝家	上杉謙信	
細川幽斎	斎藤道三	今川義元	

解答欄

* 解答は最終頁にあります

にじいろベーカリー 秋のパン便り

秋の新商品



きのこクリーム ¥150

フランスパンに風味豊かに仕上げた季節のきのこ
ホワイトソースを入れ、焼き上げました。



かぼちゃグラタン ¥130

大きな角切りかぼちゃをホワイトソースで
グラタン風に仕上げました。



スイートポテトパイ ¥130

さつまいもと黒ゴマの相性が抜群の定番商品です。



焼きいもパン ¥120

オーブンで焼いたさつまいもをベースにした
芋あんをつめた焼きいも風パンです。

この他にも人気の定番商品は
もちろん、デザートもご用意
しております。
(日によってはご希望の商品が
ないこともございます)
なお、ご予約も承っております。
ご予約の際は、店頭あるいは
TELでお問い合わせ下さい。



慰安旅行



2011年6月30日(木)、にじいろベーカリー
がOPENして初めての慰安旅行を実施しました。
当日はベーカリースタッフをはじめ、利用者さん、
イベントでお手伝いしたく済世会スタッフさん
を含む総勢9名で『博多湾クルーズ』に行っ
てまいりました。博多湾を一望しながらマリエラで
の美味しいコースランチを堪能し、和気あいあい
と楽しい時間を過ごすことができました。

にじいろベーカリー

営業時間：10:00～18:00
定休日：土・日・祝日
TEL・FAX：(092)672-2416
URL：http://blog.2416bakery.com
詳しい情報は裏表紙に記載

にじいろベーカリーは現在、東区保健所、福
岡輝栄会病院、河野病院、河野粕屋病院にて
定期的に販売させて頂いております。また、
平成23年も季節毎に各イベントにて出店・
販売予定です。詳しくは日程が決まり次第、
店頭・ブログにてご案内させて頂きます。

出店の様子

7月16日『名島祇園夏まつり』



毎年、東区名島地区で開催される『名島祇園夏まつり』(日程：7月16日・場所：名島運動公園)に今年初めて出店いたしました。当日はたくさんの方でにぎわい、盆踊りでは常連さんがはりきって踊ってらっしゃいました。人が多すぎてスタッフも利用者さんも声を枯らしながらの呼びかけとなりました。

7月26日『MAMA'S Park』



今回2度目の参加となった『MAMA'S Park』(日程：7月26日・場所：サンレイクかすや)。ママさんやお子さまが好きな焼ききたパンと手作りお菓子を全品100円で販売いたしました。たくさんのお客さまにお買い上げいただき、おかげさまでお昼過ぎには完売となりました。

イベント出店のお知らせ

9月30日(金)『健康フェスティバル』

場所：東保健所

時間：9:30～12:30

お問い合わせ先：東保健福祉センター健康課

TEL：645-1078

11月23日(祝)『ふれあい広場』

場所：九州産業大学

時間：10:30～15:00

お問い合わせ先：東区社会福祉協議会

TEL：643-8922

11月下旬『和白糖祭り』

場所：和白糖湯

焼ききたパンや手作りお菓子・ジュースを
全品100円で販売する予定です。

施設案内

河野病院

〒811-2413

福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲 139

TEL (092) 947-0611 (代)

FAX (092) 947-8598

<http://www.kawano-hp.com>

e-mail: info@kawano-hp.com

デイケア「にじいろ」併設



河野粕屋病院

〒811-2101

福岡県糟屋郡宇美町大字宇美 10-2

TEL (092) 932-7300 (代)

FAX (092) 933-3138

<http://www.kawano-hp.com/kasuya/>

e-mail: kawanokasuya@kawano-hp.com



河野名島病院

〒813-0043

福岡市東区名島 4 丁目 28-53

TEL (092) 681-5231 (代)

FAX (092) 672-1525

<http://www.kawano-hp.com/najima/>

e-mail: kawanonajima@kawano-hp.com

デイケア「どリーむ」併設



薬院河野クリニック

〒810-0022

福岡市中央区薬院 4 丁目 4-20

TEL (092) 531-2416 (代)

FAX (092) 531-2555

<http://www.kawano-yakuin.com>

e-mail: info@kawano-yakuin.com



特定非営利活動法人にじいろ福祉会 小規模作業所にじいろベーカリー

営業時間: 10:00~18:00 定休日: 土・日・祝日

〒813-0043

福岡市東区名島 4 丁目 28-53

河野名島病院敷地内

TEL・FAX (092) 672-2416

<http://www.kawano-hp.com/care/bakery.html>

e-mail: nijiro-bakery@kawano-hp.com

訪問看護ステーションパラソル

〒813-0043

福岡市東区名島 4 丁目 28-53

TEL (092) 681-5231 (代)

精神障害者グループホーム

白百合荘 (男性) 福岡市東区

河桜荘 (男性) 第2河桜荘 (女性) 糟屋郡篠栗町